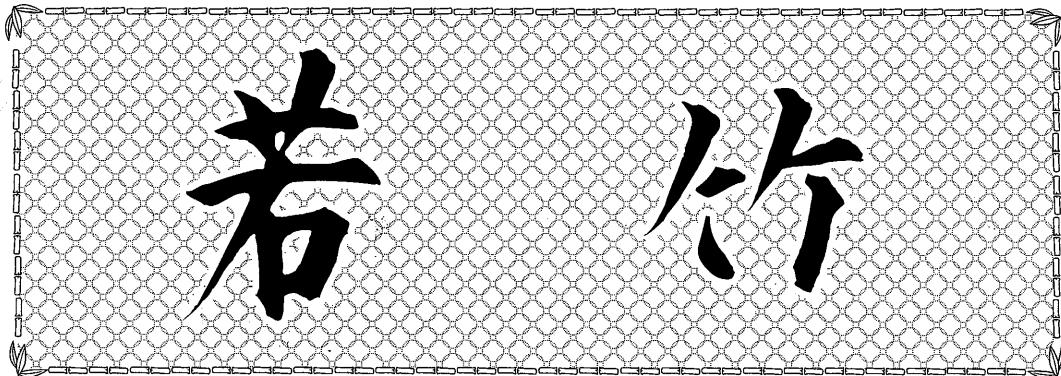
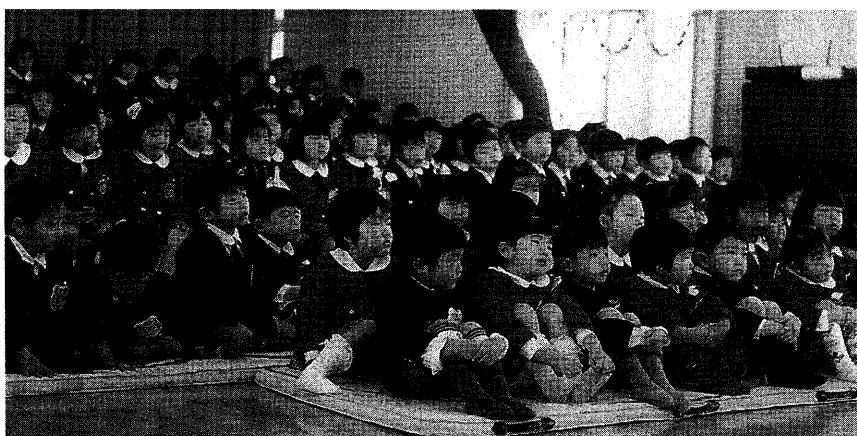


## 第三十七号



### 奉祝 内親王殿下御誕生



慰問神楽にて 青葉幼稚園の子供達

愛媛県神道青年会

事務局 〒790-0934 松山市居相町337  
伊豫豆比古命神社 社務所内  
TEL 089-956-0321

## 新年のご挨拶

愛媛県神道青年会会长

三輪田 泰生



平成十四

年の新春を  
迎え、謹ん

で皇室の弥  
栄を言祝ぎ

奉り、併せ  
て御社頭の  
ご隆盛と先

輩諸賢、会員各位のご健勝を衷心よりお祝  
い申し上げます。

昨年皇太子妃雅子殿下には、十二月一日

宮内庁病院で敬宮愛子内親王殿下を御出産  
になられ、皇太子同妃両殿下は申すまでも

なく、天皇・皇后両陛下のお慶びはいかば  
かりかと拝察致し、多くの国民が敬宮愛子  
内親王殿下のお健やかなご成長と、奉祝  
の誠を捧げたことは記憶に新しい事であり  
ます。

く聞こえてくる暗い一年であります。  
当会に於いては再発足三十周年を迎えたこととなり、五月八日の総会に於いて会長  
を拝命してより、この二つの事業を中心にしてまいりました。

先ず再発足三十周年でございますが、こ

の三十年間を顧みますと、昭和四十六年に  
故和田初代会長の下再発足され現在まで、  
初詣及び格言ポスターの配布、会報「若竹」  
の発行、玉串料訴訟に関する支援、情宣活  
動、手水作法及び拝札作法の看板の配布、  
初詣テレビスポット、ラジオスポット、観  
月神楽のタベ又慰問神樂の実施、大嘗祭、  
御即位十年の啓蒙活動等、様々な活動を行  
つてまいりました。

こうした活動を諸先輩方が努力し、積み  
重ねてこられた三十周年という年に、記念  
事業と致しまして、県内の神葬祭に於ける  
過去、現在、将来をキーワードに「愛媛の  
神葬祭」を刊行し、また現在の情報通信の  
発達にともない、当会のホームページを立  
ち上げることとなりました。後は一月二十  
二日の愛媛県神社庁に於ける再発足三十周  
年祈念奉告祭、国際ホテルでの祝賀会を残  
すのみとなりました。本来ならば、記念式

典を始め多くの記念事業を計画致す予定で  
ありました。しかし、中央研修会を担当致す為、  
規模を縮小することとなりました。  
その中央研修会については、研修会の成  
功を目指し実行委員会を組織し準備を進め  
てまいりました。

主題を「教育維新への道」、副題として  
「誇りある日本人であるために」と決定  
し、幕末から現代までの教育等を考察し、  
本来の教育、本来の日本国というものを考  
え改めて頂き、青年神職として、また奉務  
神社を軸として、我々にはどの様な可能性、  
役割があるのか探求し、発起して頂く研修  
会を考えております。

我々青年神職が取り組むべき問題は教育  
だけでなく、他に数多くあるとおもいます。  
また、私共神職の務めは祭祀の厳修、御神  
徳の顯揚の社頭奉仕と、地域社会における  
教化活動、国体の護持、敬神崇祖の精神を  
伝えることであります。三十周年を迎えた  
今、私共は初心に帰り更なる相互研鑽に励  
み、斯界の發展の為努力致す所存でござい  
ます。

結びに、これらの事業を控え、先輩諸賢、  
会員各位の御理解御協力を賜ります様謹ん  
でお願い申し上げ新年の御挨拶と致します。

## 平成十三年度 神道青年 全国協議会・中央研修会

来る平成十四年三月十三・十四日、当愛媛県に於きまして「平成十三年度・神道青年全国協議会・中央研修会」が開催されます。

四国地区主管で行われる今大会は、趣旨として「教育維新への道～誇りある日本人になるために」というテーマを掲げ、昨今の教育に関する問題を御講義いただく予定でございます。

各界から教育や時事に造詣深い講師先生をお招き申し上げ、今後我々が取り組むべき具体的の指向性や手段を模索したいと考えています。

### 教育維新への道 ～誇りある日本人であるために

江戸時代末期から明治・大正・昭和初期にかけて我が国、とりわけこの四国は幾多の志高い人材を輩出している。そして現在もこの地に住む者は言うに及ばず、全国的

に憚れと誇りと共感を持たれて現代に生きる我々の中にも時を越えて息づいている。その時代の人材を育んだ「教育」と現在のわが国に於ける教育内容の違いとはいったい何であろうか。

「教育は国家百年の大計」といわれるが現在の我々の周囲には自由と権利を履き違えた教育が平然と行なわれ、その結果学級崩壊や青少年の凶悪犯罪の多発は言うに及ばず、自己の快楽の為に育児まで放棄する者も現れ、自己犠牲の精神や公共心の欠如などが現在の諸問題の根源となつてゐる。このまま行けば教育問題のみならず国家の存続まで危うい状態に陥つてしまふといつても過言ではない。

激動と言われる幕末・明治維新、そして明治の御代に活躍した現在の我々と殆ど同じ年代の人物達。その置かれた時代背景や施された教育、また個々の人物の生き様などから、「独立国家・日本」という意識を全国民が抱き、誇りと氣概溢れるこの時代を考察し、混沌とした現代社会に生きる我々の真の歴史的価値観の確立、また国史に対する真摯な認識や、本来「教育」というものが目指すべきものをその時代を一つの着眼点として探求し、また現在の我々に於いてはこの現代の志士となるべく確固たる史

觀・教育觀を構築し、青年神職として、また奉務する神社を軸として我々にはどの様な可能性があり、具体的に何が出来るのかを「教育維新への道」と題しこの四国から発信・発起するを本研修会の目的とする。

この趣旨を踏まえ、講師先生には次のお三方に御願い致しました。

### 第一講「坂本龍馬にみるその時代の教育」

講師先生　岡　田　幹　彦　先生

### 第二講「自己犠牲の精神」

講師先生　名越　一荒之助　先生

### 第三講「誇りある教育を目指して」

講師先生　小林　よしのり　先生

この様な素晴らしい講師の先生方をお迎えして行われる今大会の実りある成功を目指し、現在当会では各種準備に励んでおります。

是非とも成功を収め、またこの紙面で皆様方にその成果をご報告出来ます様に会員一丸となつて取り組みたいと思ひます。

## \* 第十九回観月神樂のタベ

去る九月三十日(日)、周桑郡丹原町に鎮座致します綾延神社(森正康宮司様)におきまして、恒例となつております「第十九回観月神樂のタベ」が開催されました。



当日は、会長を始め青年会員十六名と例年お手伝い下さっております先輩神職の方四名、また石鎻神社の巫女さん方六名の総勢二十六名にて「神鉢鉢女之舞」「浦安の舞」「弓之舞」「越天樂」「陪臯」「悠久の舞」「火焼之舞」の演目で奉納させていただき、生憎の雨で足下

が悪い中にもかかわりませず拝殿いっぱいに参集いたきました方々からは、拙い演奏ではありますのが、演奏が終わるたびに暖かい大きな拍手をいただき誠に有り難い限りでした。

また、最後となりましたが、森宮司様を始め神社総代の皆様、そしてお手伝いをいただきました各方面の皆様方には、御準備等何かとお世話になりましたこと、紙面をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。

(大岡)

## \* 三島・森田西烈士慰靈祭

平成十三年十一月二十五日、三

島由紀夫氏が市ヶ谷の陸上自衛隊東部方面総監部において、森田必勝氏と共に割腹自殺をした日から三十一年の月日が経とうとしている。

三島・森田西烈士の義挙の精神とは何かを深く省みて、その精神を継承するべく、我々愛媛県神道青年会は三島氏自決の日に三島・森田西烈士慰靈祭を厳粛に斎行した。十六名にて「神鉢鉢女之舞」「浦安の舞」「弓之舞」「越天樂」「陪臯」「悠久の舞」「火焼之舞」の演目で奉納させていただき、生憎の雨で足下

だ単に慰靈祭を行うだけではなく、義挙の精神継承のために三島氏の思想に触れるようなことがあれば、

更に深くその精神が私たち青年の中に浸透していくのではないかと思う。

時、伊予郡松前町の学校法人後藤学園の青葉幼稚園において神道青年会行事、慰問神樂を開催させていただいた。今回の慰問神樂も愛媛県神道青年会OBの後藤先輩の御好意により実施する事が出来た。



混沌とした現代の日本、今までの価値観が殆ど通用しなくなつてきたこの世の中で、三島氏が後世に伝えようと書き残した文章には、失われていく日本人の精神を取り戻すための指針がたくさんあると思う。こういう機会を捕らえて我々青年神職は日本人の精神とは何かを模索し続けなければならないと思う。

(小野)

## \* 慰問神樂

平成十三年十一月二十日前十



青葉幼稚園の園児約百六十人に囲まれ、伊豫豆比古命神社の巫女の浦安ノ舞を初め、伊予神樂の神樂舞、そして雅楽はOBの方々にも御助勢願つて滞る事無く奏上した。

ほとんどの園児達は今まで神楽や雅楽を見る機会が無かつた様で、

大変興味深そうに、そして不思議そうに見入っていたのが印象的である。

特に伊予神楽の大蛇の舞は鬼の面を被り鬼の姿で舞う為、園児たちはとても怖がり、泣き出す園児まで出る始末であつた。だが次第に子供達も鬼に慣れ、鬼と相撲

•••••••••••••••••••  
最後に園児たちは、鬼と「好き嫌いをしないで何でも食べます」と約束をして今回の慰問神楽も盛りだくさんで下ろした様である。

大裏に終演を迎えた。(渡部)

## 愛媛県神道青年会再発足二十周年記念事業 「愛媛の神葬祭」発刊

本書は平成十年より県内各神職へのアンケート調査用紙作成より始まり、まず青年会各役員よりアンケート用紙に記載すべき質問事項の提案、選定、作成、送付を行つた。次にご回答いただいたアンケート用紙を発刊に向けて発足した石村聖氏を長とする神葬祭冊子編纂委員会に委ね、回答の取り纏めが行われると同時に編纂委員が個々に項目を受け持ち、隔月に行われる編纂委員会にて検討、集約が重ねられたが、回答が詳細多岐

にわたる為、発刊への道のりは極めて厳しいものとなつた。しかし編纂委員会開催会場である巣鴨神社宮司で祭式講師柳原宰先生の御知恵を拝借し、徐々に冊子の骨格ができ、そして祭式講師那須信子先生のご協力、又、綾延神社宮司森正康先生がご執筆いただいた御蔭で、当初の予定より若干遅れながらも発刊に至つた。改めてこの事業に際しご協力いただいた関係各位の方々に心より御礼申し上げます。

(和氣)

## 作法の扉

### —会話編—

イックサン お太夫さん、近頃お宮

で結婚式挙げる人、がいに減ったがやない。

神社だけでじゃなく会館も含め神前結婚式自体減少してるんじゃな

いかない。まあチャペルに流れている話もよく聞くけど。あるホテル

マンの話だとチャペルでの挙式も横這い若しくは減少傾向らしいよ。

景気が回復せんけん、

イックサン 質素に内内で会食だけ

で済まして挙式せんがやない?

太 夫 そうかもしれないね。

イックサン それと家と家の縁、つまり繋がりつていう観

念が希薄になりキリスト教的個人主義が蔓延

し一人だけの縁つて感覚になつてきたとも云えるんじゃないかな。

ただ友人達と酒の席でよく昔を振り返つて話

イックサン

神社は心の故郷云うぐらいやけんな。ヤツパ日本人ですらない。ところでは変わるんやけんど結婚式でお酒注ぐ金色のもんあらいな。何云うがあ? だよ。

太 夫 ああそうかな。それとそれに飾りみたいなもんがついとらいなあ、

太 夫 銚子(ちょうし)提子(ひさげ)って云うんだよ。

あれは形が違うみたい  
なが、どがいに違うが  
あ？。  
太 夫  
流石イックサン、伊達  
に十年氏子総代やつて  
ないね。よくぞ形の違  
いに気がつきました。  
あの蝶飾りは雄蝶（お  
ちょう）雌蝶（めぢょ  
う）って云うんだけ  
ど、その前に提子と銚  
子の話からさせて貰う  
と解かり易いので、  
少しばかり時間戴け  
るかなあ。

太 夫  
イックサン  
太 夫  
晩にイカ漁に出ないけ  
んがやけど一時間位や  
つたらかまんで。  
そんなに時間は取らせ  
ないよ。まず銚子なん  
だけど一般的に長柄の  
銚子つてやつ、そう  
そう柄の長い方ね。あ  
れは人にお酒を注ぐも  
のなんだよね。そして  
その長柄銚子にお酒を  
注いだり注ぎ足したり  
するものが提子なん  
だ。だから本来提子で  
人にお酒は注がないん



イツクサン

ほんなら提子長柄銚子

だよ。ただ時間的制約とかあつて会館の式場なんかでは両方で注いで回つてゐるけどね。ま、その辺りは目を瞑るとしてもいただけないのが雄蝶雌蝶の飾りつけ(取り付け)違ひだよね。どつちがどつちゅうて決まりがあるがあ?勿論だよ。万物陰陽の法則とでも申しましょうか。

太夫はいはい。これも雌雄提子からお酒を受けるんだからメスだね。そりやすいよ。提子はさつき話した通り長柄銚子にお酒を注ぐものつまりオスと考えるんだ。それで長柄銚子は提子からお酒を受ける簡単でしょう。提子には雄蝶を長柄銚子には雌蝶を飾り付けるのが本義なんだ。解かった？ そがいな事かな。よう解かつたですらい。

太夫 僕はよく粗探しの鉄人なんて云われてるんだけどこれって本当お門違いだよ。間違つても僕は潔癖な人間じやないし、ただの大酒呑みのオヤジなんだけどなあ。

イックサン その通りてや。酒呑んどつたら機嫌ええがになあ。

太夫 おいおいそこまで云う

か。まあそれは良しと  
して、もし結婚式とか  
で神主さんが紺い袴を  
著けて祝詞奏上してた  
ら可笑しいでしよう。  
それは一般的に認識が  
あるからなんだよね。  
提子と銚子も同じ事な  
んだけどね。せめて神  
主さんには認識しても  
らわないと困るよね。  
余談だけど会館の式場  
では雄蝶雌蝶反対のと  
ころ実に多いんだよ。  
是非神主さんには指  
導して戴きたいと思  
つてるんだけどね。  
そりやそうですらいな  
あ。神主さんは俗に云  
うたらその道のプロで  
すけんなあ。ま今日は  
これで帰りますらしい。  
また聞かしてや。今度  
は美味しい酒とイカ持つ  
て遊びに来るけんな。  
楽しみにしどきなはい  
やあ。  
はい楽しみにします  
よ。  
ではまた。

## 愛媛県神道青年会ホームページ

愈々というか、ようやくというか、当会のホームページがアップされました。内容的にはまだまだ発展途上のコンテンツですが、今後内容を充実させて「使える」サイトを目指して行きたいと思います。とりあえずアップした内容はあくまでも「基本的な」ものですが、とりあえず「アップした」という事実を重視して頂きたく思います(笑)。現在の内容は以下の通りです。

<http://users.goo.ne.jp/tricky49>

# 愛媛県神道青年会

愛媛県神道青年会は愛媛県内在住の若手神職により構成される  
日本の伝統と文化を守ることを目的とした団体です。



観月神楽のタベ

○会長あいさつ

○活動内容

○中央研修会

○愛媛案内

○役員紹介

○掲示板

○お問い合わせ

○HOME

編集後記

暗く重い昨年の世情に在つて、内親王殿下の御誕生程喜ばしく光に満ち溢れた事はありません。

皇室はもとよりながら、少子化が国の重大な問題になりつつある昨今、新生児の誕生は遍く国内のどの様な場所でもどの様な状況下でも祝福すべき事柄であると思します。

さて、当会も再発足三十周年という佳節を迎えた。その中で二点の記念事業を計画・実行致しました。

先ず県内に於ける神葬祭の情報収集及び冊子としての編纂、また昨今のご時世に対応すべく愛媛県神道青年会の公式ホームページの構築を事業として行いました。

「愛媛の神葬祭」冊子に関しては、県内の各社の宮司様をはじめ、祭式講師の諸先生方、また県内神社の識者の方にもご協力を頂き、非常に纏まりのある有意義なもの

が編纂されたと自負しております。单なる情報収集の羅列に終わらず、過去・現在・

未来という時間軸を編纂方法の指針として県内神職はいうに及ばず他県の方に見て頂いても当地・愛媛の神葬祭の流れが把握出来る、また実地に於いても参考書的な意味合いも多分に含まれている関係上、「花も実もある」実用書としての価値もあろうかと思います。

またホームページに関しては、「有効な情報交換の場」としてインターネットとい

う「道具」を適切に利用して会員間の情報交換はもとよりながら全国の神道青年会との連絡、また神社界に限らず一般社会との接点としての「舞台」を作るべく作成致しております。まだ内容としては不十分な点も多々ありますが、先ずは取り掛かりとして満を待して世に公表致します。今後も内容を充分吟味して、より「使える」ものに育てて行きたいと思っています。

愛媛県神道青年会の存在価値を会員一同今一度問いかねし、弛む事なき前進を図ります。

小糠雨降る睦月の社頭にて

愛媛県神道青年会会報

「若竹」 第三十七号

あるうか」。

勿論斯界の為に青年という年齢層が行える活動や啓発はありますが、先ず参加して

いる我々が主たる目的に何を掲げているのかが昨今あやふやになつて来ていると思われます。まあ私だけかもしれません、会の中の確固たる理念だけはしっかりと顕彰し、実践して諸先輩からもいい会の状態でみると安心していただける様に努めて行きたいと思っています。

記念事業も勿論ですが、現在まで当会が連綿と行つてきた年間行事も尚一層内容を充実させながら継続して行きたいと思っています。

記念事業も勿論ですが、現在まで当会が